

11月10日（木） 看護研修センター

新人看護職員実地指導者研修

5回のシリーズ研修が終了。42名の方が研修を終了して修了証を受取った。

研修最終日には5回の研修のまとめとして、「理想とする指導」としてグループワークを行う。5回の研修で違う施設の方とも交流ができ、和気あいあいとしたワークであった。

最後にグループでまとめたものをそれぞれ写真を撮ったり、他のグループのものを見てもらった。



(グループワーク風景)



(グループのまとめ)

## 11月12日（土） 看護研修センター

### 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修

というテーマで日本看護協会作成のDVDを使用しての研修。

参加者は73名。午前中はDVDによる講義で途中、小ワークがあり隣の席の人との討論を行う。

午後よりは13グループに分かれてのワークとなる。

3名のファシリテーターの方の協力でグループワークもスムーズに行われ、全グループが発表することができた。

アンケートからも「グループワークで他施設の業務内容・状況・問題点などの共有や解決に向けてのヒントになり自部署に戻って実践していこうと思う」や「今後の補助者さんへの教育に活かせる」などの前向きな意見が多かった。



(DVDによる講義風景)



(午後からのグループワーク)

## 11月30日（水） ビッグU

### 挿管から人工呼吸器装着中患者の看護

というテーマで南和歌山医療センター 救急看護認定看護師の吉邨 公一先生に講義を行っていただく。

参加者は78名であった。

講義開始前に事前アンケートを行い、人工呼吸器などについての疑問や質問を書いてもらい、講義中に内容の追加や解説を入れながらの講義の進め方であった。

講義内に入れられなかった質問については、講義終了後にまとめて回答してくれた。

人前で質問が行いにくい人も、疑問をかなり解決して帰られたのではないかと思います。

また、講義中には呼吸音をDVDで聞きながら、音の違いを説明してくれる。

挿管手順か介助方法の説明、人工呼吸器装着中の患者の観察ポイント、ケアについてを詳しく説明してくれた。



(講義風景)

## 12月6日(火) 看護研修センター

周産期のメンタルヘルスケアというテーマで和歌山県立医科大学保健看護学部 准教授で精神看護専門看護師の**武用 百子**先生に講義を行っていただく。

参加者は28名であった。周産期に関わる方が少ないため参加者も少なかった。

午前中はうつ、人格障害、適応障害を全体的に講義しながら、周産期にはどのような対応が必要かを説明してくれる。

午後からは「傾聴」の演習を2人1組になり行う。

また、5~6人のグループワークで事例を通して、精神症状のアセスメント。

ストーリーを読み解きながら精神的な問題点を抽出し、介入の方向性をグループワークした。



(午前の講義風景)



(午後からの傾聴の演習)



(アセスメントから介入の方向性を考えるグループワーク)

## 12月8日(木) ビッグU

エンド・オブ・ライフを学ぶ(一般病棟編)というテーマで和歌山県立医科大学附属病院がん看護専門看護師の温井 由美先生に講義を行っていただく。

参加者は72名。ビッグUの定員の関係で人数が限定されてしまうため、申込をお断りした方もいる。ご迷惑をおかけした。来年度も行う予定のため、ぜひご参加ください。

講義はまず、「自分ならどんな最後を迎えたいか」をグループワークして発表することから始まる。

・痛みがない。 ・家族に迷惑をかけない。 ・長く寝込まない。 ・好きなものに囲まれたいなどの意見が出た。

「エンド・オブ・ライフとは」から症状マネジメントについて、がん性疼痛を基本に話してくれる。

午後からは、「倫理について・」事例を通してグループワークを行いながら学ぶ。

「質の高いエンド・オブ・ライフを達成するために、あなたはどのように取り組みますか？」現状を振り返り、個人ワークで今の職場ではどうすればいいかを考えるという進め方であった。

大変重いテーマですが、講師の実体験を交えながらの話で、アンケートからも考えさせられた。わかりやすかった。などの意見が多かった。



(午前の講義風景)



(午後からのグループワーク)



(グループワーク後の発表内容を教育委員が板書してくれた)

## 12月11日(日) 看護研修センター

食べる力を支える看護というテーマで和歌山労災病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師の橋本 真由美先生に講義を行っていただく。

参加者は78名であった。

午前は橋本先生が摂食嚥下の基礎知識、摂食・嚥下訓練の方法、誤嚥しにくい姿勢、

誤嚥しにくい食べ方のポイント、食事形態の選択などを講義してくれる。

午後からは和歌山県下の摂食・嚥下障害看護認定看護師 5名がそれぞれグループに分かれて担当してくれる。

ベッドや車いすを利用して食事介助に必要なポジショニングや実際にゼリーを使って介助の方法をデモンストレーションを見たうえで演習を行った。

ファシリテーターとして5名が担当してくれたので、それぞれ細かく疑問点に答えながら演習を行っていた。



(午前中の講義風景)



(午後からのポジショニングの演習)



(5台のベッドを使って演習)



(エンゲリードを使って介助の演習)

まずはポジショニングに悩む患者が多い中、今回の演習でコツを学ぶことができてよかった。口を閉じて、飲み込みをなかなかしない患者に対しての援助方法がわかったなどのアンケート結果であり、翌日からすぐに現場で活用してくれていると思う。

## 12月13日（火） 看護研修センター

退院支援看護師研修 が講義が4日、訪問看護ステーションと自施設での実習がそれぞれ1日ずつの計6日間の研修が終了した。

今年初めての研修でどのように進めて行こうかと私たち担当者も手探り状態だった。

しかし、それぞれの講師の方が丁寧に詳しく説明してくれて、質問も毎回活発にあり、充実した研修だった。

また、今回は訪問看護ステーションの方にもかなりのご協力をしていただき、ありがとうございます。

最終日には参加者全員40名に修了証を渡すことができた。

来年度も実施予定のため、今年度参加できなかった方は、ぜひ参加してください。



(最終日のグループワーク)



(グループワーク後の発表)

発表は前に出て OHP を使いながら発表、違うグループからは必ず意見や質問をするという形式で最終日はまとめを行った。

## 12月17日（土） 看護研修センター

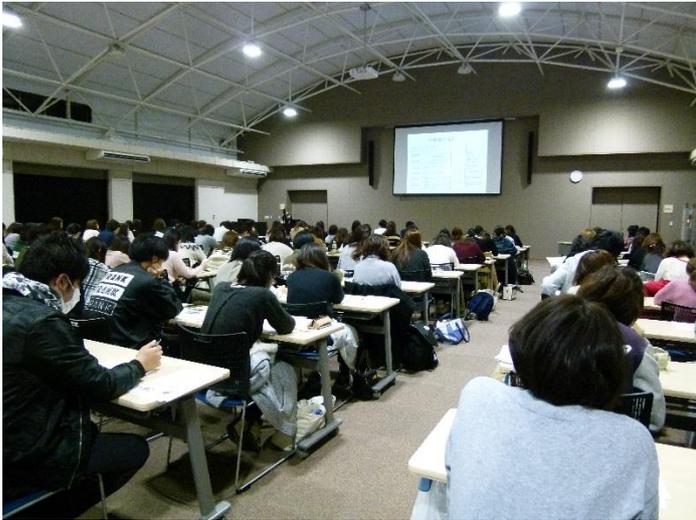
新人ナースのためのフィジカルアセスメント というテーマで 日本赤十字社和歌山医療センター 集中ケア認定看護師の岩下 裕美先生に講義を行ってもらった。

参加者は116名。

呼吸については 事例から ①どんな問診をするのか？ ②何を視診するのか？ ③何を触診するのか？ を前後左右で話し合い、先生が何人かに聞いていく。そこからどんなアセスメントをするのか？ を話し合い、聞いていく。という形で話し合いの中から解答を見出すという方法で進められた。

循環・脳神経系・腹部・皮膚と進めて行ってくれた。また、気管支体操を教えてくれた。

アンケートからも演習を行う中で、考えることの必要性を学んだ。アセスメントを深めることができた。わかりやすく、これからに活かせる研修であったと前向きな感想が多かった。



(講義風景)



(先生が話し合いの結果を聞いて回ってくれた)



(全員で気管支体操中です)

## 12月23日(金) 看護研修センター

看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 というテーマで日本看護協会 常任理事の**福井 トシ子**先生に講義を行ってもらった。

参加者は103名であった。

午前中は福井理事の楽しく、バイタリティのある講義、実体験を含めながらわかりやく

講義してくれた。。午後からはグループワーク。

ファシリテーターの方5名と福井先生の6名がグループを担当してくれ、自分の希望であるテーマでワークを行う。

今回の発表は担当したファシリテーターがまとめて発表をしてくれた。そのため、ワークでは存分に意見交換ができていたようだ。

アンケートからもファシリテーターが難しい内容をうまく発表してくれた。他施設の方との意見交換・共有し、抱えている課題の共通性を知れた。この研修のテキストから自施設なりの教育プログラムを作成したいなどの意見が出ていた。



(午前中の講義風景)



(午後からのグループワーク)



(ファシリテーターの方の発表準備)

ファシリテーターの皆様、ご協力ありがとうございました。